

を終了後の
施工時の業
に事業所の
用を求め

費のうち脱
施要領に規
の3分の2

金として事
負担金の
49万40

は、産業観
イオマス産
政策室

42

。

原地区(L)
空石地区(L)
地区(L)約
地区(L)約
このう
C1800m
友光地
完成して
地区も広
の整備とあ
度未までの

いのが、友
の改築
の改築

広島県コンクリート診断士会 コンクリートのCNなど学ぶ 第50回定例会開く

広島県コンクリート診断士会(十河茂幸会長)は11日、広島市中区で第50回となる定例会を開催した。約30人の会員が参加し、広島大学大学院の河合研至教授による特別講演「セメント・コンクリートの環境影響とカーボンニュートラルへ向け」などを聴講。質疑応答も含めて熱心に議論し

た。

定例会は、会員の技術向上や情報交換などを目的に隔月で開催しているもので、2011年の設立当時から毎回テーマを変えながら継続し、今回が50回目。

十河会長(近未来コンクリート研究会)は冒頭あいさつで、「記念すべき50回目となる今回

は、昨今の重要な課題となっているカーボンニュートラルをテーマに講演をいただき。しっかりと聞いてもらい、業務に役立ててほしい」と呼びかけた。

特別講演で河合教授は、セメント製造時に大量のCO₂が排出されることを踏まえ、これらの削減努力が必要であると

したほか、環境のためにNOx(窒素酸化物)やSOx(硫黄酸化物)、煤塵などへの考慮も重要であることを詳細なデータをもとに解説。セメントを生産する際に産業廃棄物を有効利用するため、セメントを削減すると産業廃棄物が増える可能性や、コスト面と環境面の両立など、今後解決すべき課題が多いことも言及した。

また、賛助会員であるMASUDAの榊田隆社長は、ひび割れ部からの漏水を特殊水性エマルションと親水性ポリウレタン樹脂を併用することで確実に遮断する2液混合型注入止水工法の「ミックストグラウト」を紹介。従来工法より適用範囲が広く耐久性もあり、時間短縮が図れるなどのメリットを説いた。
なお、次回の開催は12月7日を予定している。



あいさつする十河会長

現場で技術力を発揮する専門工事業者です。